

続・ボクの霊体験日記



いしがみ りょう
石上 涼

—— 人類への警告書 ——

本書について

本書は、人間の心を悪化させ、地球人類を滅亡へ追い込もうとする霊的存在が実在することをあきらかにするために、敢えて出版しました。本書は『ボクの霊体験日記』（2010年4月20日刊）の続篇になります。

霊を認めない方には、本書は荒唐無稽、世を騒がすトンデモないものと思われるかもしれません。けれども、もし人心の悪化を憂い、それでも地球と人類の平和で幸福な未来を真に願う方は、どうか虚心になり本書をお読み下さい。

本書は、人間の心（魂）を悪化させようと四六時中我々をつけ狙い人間の心に邪気——幽体（魂、見えない体）を害する幽的汚染物質（悪想念）——を注入したり、様々な働きかけを人間の幽体（潜在意識の在所）にしている霊的存在が実在することを、その具体的な働きかけをありのままに記録することで告発したものです。戦争、犯罪などあらゆる悪徳、いじめ、引きこもり、うつ、病気とかトラブルとか思わぬ事故などの源には、彼らの人間の潜在意識（幽体）への働きかけがあると考えられます。

本書の著者、すなわち邪霊たちに襲われた体験の記録者石上涼^{りょう}さんは、霊的に敏感な体質なので、普通私たちにはわからない霊的存在を、なまなましくあたかも肉体の五官で感じるかのように感じとります。それを涼さんは出来るだけ冷静に記録しています。これはいわゆる普通の霊能者には書けないと思います。なぜならば涼さんは、健全な心身の持ち主、良識ある青年ですが、それだけでなくネオ・スピリチュアリズムによる正しい霊的知識を

身につけているので、理性的な姿勢で事に対処し、判断して記録しているからです。さらに一番大切なことですが、涼さんは人間的に信頼できる高潔な人物です。霊的なことは人間性（魂のきよらかさ）が最も重要です。ですから本書は忠実な霊的な事実の記録として、世に役立つものとして提供できるのです。特に本書のエピローグ（1年間のまとめ）は、涼さんが自己の幾多の霊的体験から導き出した邪悪な存在の実態を、あくまでも理性的に（霊能者の一家言ではなく）分析し公表した、非常に貴重なものだと思います。

石上涼さんは2008年5月にリラ自然音楽クラブ（桑原啓善のネオ・スピリチュアリズムから花開いたリラ自然音楽による人間進化セラピーをおこなう会員制クラブ）の会員になり、ほぼ週一定期的にリラ自然音楽セラピーを受講しています。（本書の本文中に「セラピー」とあるのはこのことです）。涼さんは今急速な進化（人間性の向上）を遂げつつあり、邪気、邪霊の浄化の力もどんどんアップしています。誰一人世間の人は涼さんが日常的に見えない裏側から世の中をきれいにしていることに気付かず、感謝することはありませんが。本書は、こういう一人の人間の成長（進化）の記録でもあります。

尚、本文中の（注）と巻末の（補注）は、編集者が書き入れたものです。

2011年3月10日

編集者 記

2010年1月～2月

プロローグ きびしい旅立ちの前

いまアクエリアス（水瓶座）の新時代、つまり人類同胞の新しい時代への出発点です。そこには進歩と共に破壊の広大な潜勢力があります。この時にあたり、光の力を理解するすべての人が、光の天使を呼ぶこと、（……）それによって白光が平衡を維持し、地上にその開化が待たれている黄金時代が、人類の上に花開くのであります。

ホワイト・イーグル

2010年1月10日 電車から憑いてきた「デスメタ女」

自分は常に3～5人ほどの霊に襲われていて、1人が来なくなった（浄化された）と思うとすぐに新しい霊がどこからかやってきて襲われます。それは一体どこからやって来るんだろうとずっと疑問に思っていました。今朝はまた新しい霊に襲われましたが、今回はそれがどこから来た霊かハッキリと分かりました。

今朝の7時頃霊に襲われました。

滑らかな質感で形はなく、アメーバーのようにグニャグニャとしたものが背中から覆いかぶさってきました。このようなものは今まで来た事がないので、新しい霊だとすぐに分かりました。しかし一体どこから来たんだろうと疑問に思いました。

しばらくこの霊とやり取りをしていると、この霊は女性で、デスメタルのような音楽をやっている、グレーシルバー系のカラーを持っている虚無な感じの霊だと分かりました。それは感応状態での夢や、飛び込んでくるイメージからです。

その後、霊は人型に具現化し、体に絡みついてきました。そして頭や背中にむしゃぶりつき、グニャグニャを注入してきました。そうされると自分も覚醒状態に戻り、霊を追っ払いました。しかし、なぜこんな霊が突然来たんだろうと、ずっと考えていました。そしてハッと気付きました。

昨日リラ研から帰る電車の中で、近くに女性の3人組が座っていました。全員20代位で、黒いコスプレのような格好をしていて、日本語ではなく中国語のような言葉で話し合っていました。雰囲気からデスメタルのような音楽をやっているような感じでした。目立っていたので、自分もだいたい注意を向けてしまっていました。ただよく観察してただけで、何か特別な事をしたわけではあり

ませんが、それが原因で3人組に憑いていた霊が自分にくっついてきたのではないかと思います。確証はありませんが、それ以外に考えられる原因がないのでそうだと思います。

全部が全部こういったパターンで新しい霊が加わる訳ではないと思いますが、今回は初めてその瞬間がつかめました。「まさかそんな簡単な事で」とビックリしますが、弟の心の中で狙っていた霊の時も、神社でリラをしていた時に怒って憑いてきた天狗の時も^(注)、思い返すと似たような部分があるので、人物の背後の霊とその動きがほんの少し分かった気がする、自分にとっては貴重な体験でした。

この霊は多分もう（この時に浄化された感じがするので）来ない気がします、念の為「デスメタ女」とあだ名をつけて注意しようと思います。

(注)『僕の霊体験日記』を参照

2010年1月13日 「灰男」はうしろであやつるボス

霊に襲われました（恐らくは灰男）。

この日は夜寝る前から感応のような空気を感じていました。それは寝る前に本を読んだり色々な事をしている時から浮ついた気持ち心がの中に混じっていたからです。「これは来るかもしれない」と思っていたら、案の定襲われました。

布団に入りしばらくすると、頭の中を黒くて冷たい何かのスーッと流れて行ったように感じました。その後からファイに意識がガクンと落ちたり、ゴリラのようなものや、気持ち悪い人の映

像がファイに脳裏に飛び込んで来たりといった感応が起こり始めました。それに染まらないように気を付けながら、この霊は一体どういう霊だろうと観察していると、ファイに耳で「ゴホン」というイラついたような咳払いが聞こえました。この特徴は「灰男」(とあだ名を付けている霊)のものなので、来たのは灰男かと思いました。

それからはこの想念波動をはじき返そうと、心を入れて「神の子の祈り」を唱えましたが、霊の想念力がすさまじく強力で、どうやら完全に負けてしまったようです。霊の想念に頭が支配され、いつのまにか寝てしまいました。変な夢を見させられたり、その夢の中でも攻撃されたりしました。その後はばやけていてよく分かりません。

この日強く感じた事があります。それはこの霊「灰男」はいつも来る霊とは違うという事です。どう違うかというと、大抵いつも来る霊はあまり理性的でなく、感情や欲望に任せて自分の体に絡みついて攻撃してくるタイプでした。また攻撃の仕方「灰男」は体当たりではなく、離れたところから想念波動や超能力のようなものを使って攻撃しているようでした。これらよりこの灰男は、知力と理性を持った力のある霊で、ボスの存在なのではないかと感じます。

これまでも灰男は来ていましたが、他の霊とごっちゃになってしまい存在がよく分からずにいました。それは、灰男がおおよそ次のような攻撃方法をとっていたからではないかと想像します。まず、灰男が想念波動を使い私の意識を低下させます。次に意識が合って私と灰男の波長が合ったところで、あまり理性的でない「デカ唇」や「変態男」のような霊が具現化して、体に絡みつ